広島オーストリア協会

会報 No.42

2019年4月30日発行
編集・発行／広島オーストリア協会
〒730-8552 広島市中区白島北町19番2号
広島ホームテレビ 総務局内
TEL(082)221−4964　FAX(082)221−4905

アルプスを走る山岳鉄道

ご　挨　拶

広島オーストリア協会 会長
大辻　茂

会員の皆様方には、平素より広島オーストリア協会の活動に、ご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会は、5月に年次総会、8月には講演会とビアホールの会、12月にはクリスマス例会、3月にはケーキと音楽を楽しむ会等のイベントで、年間を通じて多くの会員の皆様にご参加いただき、賑やかな社交の場となりました。

今年は、日本とオーストリアの間で修好通商航海条約が締結されてから150周年を迎えます。節目となる年に過去の両国関係を振り返り、未来の両国関係を考えることは非常に重要なことと考えます。この会が少しでも両国の関係発展にお役に立てればと思っております。さらに今年は、ウイーン市内16区に広島の被爆がわらで作成された記念碑が設置されてから10年目の節目の年でもあります。これを機にウイーン市で始まったジャパンデーでは、日本の文化が毎年紹介されています。こうした皆様の地道な活動によって協会が支えられ、日本とオーストリア両国の絆が深くなっているものと感謝いたします。

今後とも会員の皆様にオーストリアをより身近に親しんでいただけるよう、活動の充実に努めて参ります。皆様方の力強いご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

総 会

■ 日　時　2018年6月6日(水)　18:00~20:00
■ 場　所　ANAクラウンプラザホテル広島
■ 出席者　80人

当協会特別顧問で駐日オーストリア大使館のフーベルト・ハイッス大使をゲストにお迎えした。「広島オーストリア協会設立30周年」を記念して行われた特別座談会では、初代協会会長 当時 広島総合銀行 故 篠原康次郎頭取の設立時の苦労話などが披露された。演奏は女性グループによるサクソフォン、トランペット、ピアノによるオーストリアにちなんだ音楽で会員を楽しませた。

2018年度事業報告

2018年度理事会・総会
6月6日(水)　ANAクラウンプラザホテル広島(参加者：80人)

講演会・ビアホールの会
8月24日(金)　シェラトングランドホテル広島(参加者：66人)

クリスマス例会
12月12日(水)　リーガロイヤルホテル広島(参加者：112人)

ケーキと音楽を楽しむ会
3月9日(土)　ホテルチューリッヒ東方2001 (参加者：33人)

2019年度事業計画

2019年度理事会・総会
6月5日(水) ANAクラウンプラザホテル広島

講演会・ビアホールの会
8月

クリスマス例会
12月

ケーキと音楽を楽しむ会
2020年3月

2018年度役員(2018年6月1日現在)

役　員	氏　名	現　職
会　長	大　辻　　茂	㈱広島ホームテレビ会長
副会長	部　谷　俊　雄	㈱広島銀行取締役常務執行役員
	光　井　安　子	音楽家
	松　本　憲　二	マツダ㈱総務・法務室長
専務理事	草　本　健　資	㈱広島ホームテレビ取締役総務局長
理　事	畑　矢　健　治	㈱中国新聞社副社長
	伊　藤　裕　章	㈱広島ホームテレビ社長
	久　保　雅　史	広島エフエム放送㈱社長
	熊　平　雅　人	㈱熊平製作所会長
	井　上　隆　志	(公財)ひろしま国際センター専務理事
	小　溝　泰　義	(公財)広島平和文化センター理事長
	小　田　宏　史	㈱もみじ銀行頭取
	岡　畠　鉄　也	㈱中国放送社長
	佐　野　譲　顯	広島テレビ放送㈱相談役
	グレーゴル・Bチェルス	駐日オーストリア大使館公使
	松　本　茂太郎	福山瓦斯㈱社長
	箕　輪　幸　人	㈱テレビ新広島社長
	吉　中　康　麿	安田女子大学非常勤講師
監　事	山　村　浩　志	広島信用金庫　地域交流部長
	渡　部　伸　夫	中国電力㈱副社長

運営委員

役　名	氏　名	現　職
委　員	阿　部　秀　造	㈱阿部洋酒店社長
	宇　田　　均	元㈱広自センター社長
	内　海　輝　雄	オフィスU代表
	來　島　康　浩	(株)もみじ銀行 経営管理部部長
	熊　本　良　平	(公財)ひろしま国際センター交流部長(兼)総務課長
	小　坂　哲　也	広島国際大学教授
	定　本　晴　路	マツダ(株)　総務部地域リレーショングループマネージャー
	上　口　雅　彦	(公財)広島平和文化センター国際交流･協力担当部長
	田　中　勝　邦	広島カナダ協会・広島県日韓親善協会 理事

特別役員

役　名	氏　名	現　職
特別顧問	フーベルト・ハイッス	駐日オーストリア大使
名誉会長	橋　本　宗　利	㈱広島ホームテレビ参与
顧　問	川　野　祐　二	エリザベト音楽大学学長
	岸　田　文　雄	衆議院議員
	湯　﨑　英　彦	広島県知事
	深　山　英　樹	広島商工会議所連合会会頭
	松　井　一　實	広島市長

講演会・ビアホールの会

■ 日　時　2018年8月24日(金)　18:00～20:00
■ 場　所　シェラトングランドホテル広島
■ 出席者　66人

講演は、広島平和文化センターでボランティア活動をされているベネディクト・シュルツ氏、最新のオーストリア事情や日本に来て感じたことなどをお話ししていただいた。又引き続き行われた懇親会では、サックス・アンサンブル・バンド「ファニー・フレンズ」に、昔懐かしい昭和の歌謡曲を中心に演奏して頂き会場を魅了した。

クリスマス例会

■ 日　時　2018年12月12日(水)18:00～20:00
■ 場　所　リーガロイヤルホテル広島
■ 出席者　121人

演奏は、広島を中心に活躍している女性デュオ。韓国の伝統楽器であるカヤグムと透き通る伸びやかな歌声で、クリスマスソングなどを披露し参加者は熱心に耳を傾けた。さらには恒例のクリスマスプレゼント抽選会、広島ホームテレビの女性アナウンサーによる、マスコットキャラクターのぽるぽるダンスが披露され、会場は一つになり訪れた会員たちは大いにクリスマス気分を満喫した。

ケーキと音楽を楽しむ会

■ 日　時2019年3月9日(土)14:00～15:30
■ 場　所　ホテルチューリッヒ東方2001
■ 出席者　33人

演奏は、広島を拠点に全国で活躍されている『さほ まりこ』さんがシャンソンを披露し会場は和やかなムードに包まれた。又、ケーキバイキングでは、バッケンモーツァルトさんのパティシエによるケーキショーの実演サービスがあり出席者を楽しませた。

オーストリア共和国連邦参議院議長一行　来広

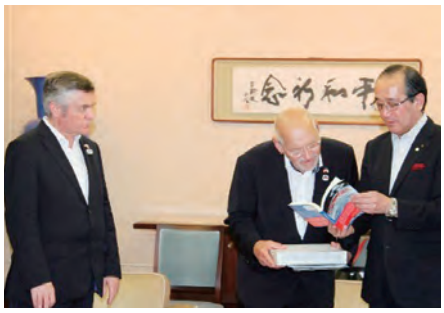
■ 日　時　2018年５月17日(木)

ラインハルト・トット参院議長

ラインハルト・トット参院議長一行が、フーベルト・ハイッス大使と共に松井広島市長を表敬訪問。又、広島市の平和公園を訪れ、原爆資料館を見学、原爆慰霊碑に花輪を捧げた。これより先、大辻名誉領事と会食を共にして親睦を深めた。

（トット議長コメント）

被爆の実相を見て大変ショックを受けた。オーストリアに戻ってこの事を伝えたい。資料館では、焼けただれた肌で子供を抱くお母さんの写真が大変印象に残っている。全世界から核兵器がなくなること望む。



フーベルト･ハイッス大使が宮島散策

■ 日　時　2018年6月7日(木)

総会に出席された翌日、フーベルト・ハイッス大使が大使館から同行されているモーセァ通訳と共に宮島を散策。海に浮かぶ宮島の大鳥居の美しさに強く感銘を受けられたご様子で、干潮時には待ちかねたかのように大鳥居に近づき、間近に見上げながら満足そうに写真を撮っておられた。又、弥山を指差し登りたいということで、頂上までの登山と相成った。観光ガイドの説明を熱心にお聞きになり、日本の文化に満喫されているご様子だった。

オーストリア共和国連邦首相 日本公式実務訪問で来広

■ 日　時　2019年2月16日(土)

国連での核兵器禁止条約の採択に主導的な役割を果たしたクルツ首相が来広した。クルツ首相は今年が日本との友好150周年に当たることから来日、広島へは本人の希望で訪れた。松井市長や被爆者との対話の時間をたっぷりとられた首相は「非常に悲しい気持ちになり、原爆の破壊力を思い知らされた、被爆者と連携して、核軍縮のために一緒に闘いたい」と述べられた。

広島オーストリア協会　設立30周年を祝って

フーベルト・ハイッス　オーストリア大使
（総会でのハイッス大使の挨拶の一部を抜粋）

先般、日本の参議院議長の招待で日本を訪問したオーストリアの連邦議会のデレゲーションに同行しました。デレゲーションは連邦議会の各政党を代表する人物から構成されていました。議員たちは平和記念資料館で目の当たりした、1945年8月6日当日。そしてその後、広島市民が経験した計り知れない苦悩に動揺し、こころを打たれました。オーストリアに帰国後も見たことを伝えることと確信しています。この受難の唯一性は、オーストリアが核軍縮政策を必ず継続してゆくとの決意を新たにさせているものです。

一世紀半の間育まれたオーストリアと日本の関係は現在心が通える優れた友情に発展しました。振り返ってみれば、いずれも1000年の歴史を誇る国同士が互いに関心を寄せ、探求し合うその過程が興味深いものです。明治初期、日本で活躍する二人のオーストリア人写真家が、それぞれ多くの苦労を伴う旅をしながら、当時の日本の姿を写真に納めました。その成果は今写真集となり、市販化されています。日本もヨーロッパに出向きました。1869年国交樹立間もない1873年のウィーン万国博覧会の際、日本は初公式参加を果たし、日本館を出展しました。ウィーン万国博覧会がオーストリアにジャポニズムという芸術形式をもたらし、次第にウィーンのユーゲンドシュティールに大きな影響を与えました。

皆様、150年前に始まった探検の旅を是非続けてください。最近、休業になっていた東京とウィーンを結ぶ直行便が週五便の往復運航のスケジュールで再開されました。広島オーストリア協会の更なる30年、オーストリアと日本には更なる150年のご多幸とご活躍をお祈りします。

最新のオーストリア事情と日本に来られて感じたこと

海外奉仕協会のオーストリア平和奉仕者 ベネディクト・シュルツ氏

日本で好きなものといえばお好み焼き、そして海です。オーストリアには海がありません。一番近い海はイタリアかクロアチアですが、住んでいるところからは、8 時間以上かかります。広島では、仕事が終わったら、自転車に乗って、元宇品まで行って夕日を見ることが出来ます、とてもいい感じです。

日本に来てから一番びっくりしたことは、クリスマスの習慣です。オーストリアでは、クリスマスの別の名前は『静かな祭り』で、基本的には家でクッキーを焼いて楽しんだりして、静かに家族と共に過ごします。東京のライト イルミネーションはすごくきれいと思うのですが…。

もう一つの違いは大晦日、オーストリアでは、大晦日の夜は、すごくうるさいのです。友達とお酒を飲んだりしてパーティーをして楽しみます、花火は街中ではうるさいぐらいです。オーストリアのクリスマスは、日本の大晦日のように見えて、日本のクリスマスはオーストリアの大晦日のように見えるのは面白いと思いました。

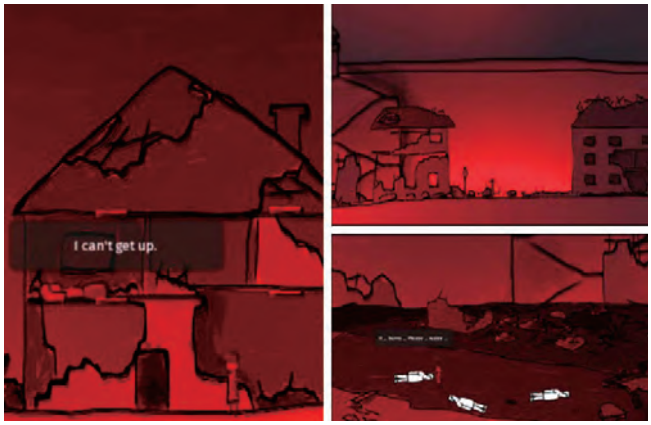
さて、オーストリアでは18歳になった男性は兵役か非

軍事役務をしなくてはなりません。私は兵役をしたくなかったので、外国での平和活動ということで、日本で、ボランティア活動をすることにしました。昨年の９月１日に始まったボランティア活動の中で、私はオーストリア人に、原子爆弾による悲惨な状況を教えてあげたいと思うようになりました。そのために、プロジェクトを作りました。

プロジェクトは、平和記念公園の三次元モデルを作ることでした。

私は、多くの世界中の人々が広島に行くことができなくて、平和記念公園に来ることができない人がいると思いました。そこで、私の趣味はビデオゲームを作ることでしたから、そんなスキルを使って、パソコンで、平和公園の案内を作ることにしました。簡単なプログラミングをして、今ではパソコン内で原爆ドームやレストハウスを訪れて、パソコン内で録音の説明を聞くことができるようにしました。

原爆による悲惨な状況は、本で活字を読めば大変であることがわかるのですが、劇画の「はだしのゲン」を見



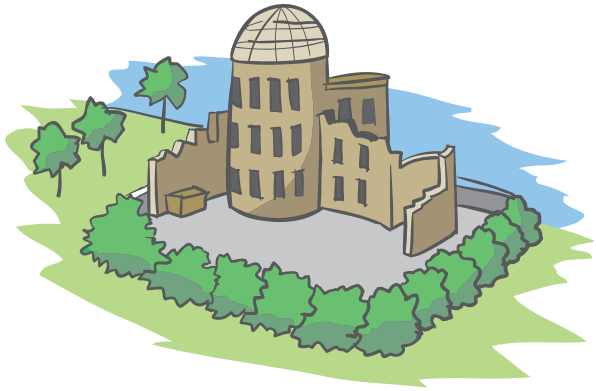
た時、今まで以上に私はショックを受けました。絵本は悲惨な状況を知る上で大変重要だと思うようになりました。しかし、画は動きがないので、現実の悲惨さは完全には伝わりません。だから、動画や映画は絵本よりさらにいいと思いました。しかし、映画を見たといっても、見ている人は『あー、そうですか。大変ですね』で終わってしまいます。大変だという思いはあるのですけど、現実には原爆の悲惨さは、伝わりにくいと思いました。一番わかりやすい方法はインタラクティブ、相互作用だと思います。映画のように映像をただ見るだけではなく、自分でその世界に入って行動を起こさせるのです。自分がしたいことを自分で決めるので、自分の行動によって人が死んだら、それは本当に大変なことだという事を知ります。

私の仕事のメインプロジェクトは『War Peace Story』という、一見、ビデオゲームのように見えるのですけれども、私の平和への思いを動く絵本にしたので、ゲームではありません。私の制作したビデオストーリーでは、原子爆弾爆発の瞬間を自分自身の行動によって体験し、原爆の恐ろしさをあなた自身に説明します。

私は、「はだしのゲン」に巡り合って奮い立たされたことが、このビデオソフト制作につながりました。これが私の広島に来てからの１年間のプロジェクトです。まもなく完成をします。オーストリアに帰ってからは、このビデオソフトを使って、原爆の恐ろしさ、悲惨さをオーストリアの人々に伝えていきたいと思います。また、広島の平和記念資料館でもこのビデオソフトを近々見ることができることを願っています。

ベネディクト・シュルツ氏　（プロフィール）

オーストリア・１９９６年生まれの２１才。グラフィックデザイナーの職業教育を受けたあと、ウイーン大学で約1年間日本語を勉強。一方で海外奉仕者として活躍、2017年1月からオーストリア平和奉仕の部長。2017年9月から広島平和文化センターで勤務。一年間、広島平和文化センター・平和記念資料館でボランティア活動。合気道をたしなみ、「はだしのゲン」の愛読者でもある。



広島オーストリア協会設立30周年の歩み

広島オーストリア協会　30周年の歩み

総会の懇親会では、当協会にご尽力いただいた３名の方にご登壇いただき思い出を語っていただきました。

写真右から
・広島国際大学医療福祉学部教授・当協会運営委員
　小坂哲也氏
・元広島総合銀行頭取　森本弘道氏
・元広島ホームテレビ社長・当協会名誉会長
　橋本宗利氏

ウィーンの音楽大学をご卒業された小坂さんからは、同じくウィーンで音楽を学ばれた、当協会の副会長 光井安子さんと共に、音楽を通じて両国の繋がりを深めようと、細やかに広島オーストリア友好協会を設立したのが始まりで、当時の顧問に岸田文武先生をお迎えし、お断りを覚悟でオーストリア大使館にご支援のお願いをした事が語られました。

初代の広島オーストリア名誉領事 兼 広島オーストリア協会会長 当時 広島総合銀行頭取 篠原康次郎さん(故人)の側におられた森本弘道さんは、当時を振り返り一番大変だったのが、広島交響楽団のウィーン・プラハ公演を支援したことだったと語られました。ベストメンバー85人をオーストリアに送り込むことになったのはいいが、高価な楽器等を海外に運び出すのに数千万円の費用がかかることが分り、資金集めに翻弄したということでした。今から思えば、地域に密着した銀行だからこそ成し得たのではないかと思います。

2002年に広島ホームテレビに事務局が移管された当時の話として当時の橋本宗利社長からは、ある日いきなり篠原さんがホームテレビに来られトップ会談で事務局の引継ぎが行われたことや、橋本協会会長時代に実施された３度のオーストリア親善訪問団での、美しい風景や宮殿の思い出話などが披露されました。

編集後記

2月16日(土)オーストリアのクルツ首相を始め、大臣、国会議員、それに付随するメディアなど総勢60人が広島を訪れました。クルツ首相が来日されたきっかけは、今年が、両国が友好条約を結んで150周年の記念の年に当たる事から、日本の安倍首相が希望したものです。クルツさんは32歳という若さでイケメン首相。一方で、国連での核兵器禁止条約の採択に主導的な役割を果たしているオーストリアの首相。広島の名誉領事館として出迎えるため、来広までの2週間は、忙しさと緊張の連続でした。

ヒロシマの存在が今まで以上に世界に注目されている今、二国間協会の一員として、広島オーストリア協会の果たす役割の重さをひしひしと感じさせられる出来事でした。今しばらく、協会の事務局長として頑張らせていただきます。

(事務局　野崎賢治　記)